

修了生からの
お便り



宝物の2年間

算数の授業で、具体物はそれなりに扱うことができても、それが必ずしも数の念頭操作につながる子を担当した経験から、子ども達はどのように数を理解していくのだろうか？という疑問を持ちました。そのような現職での課題について深く学びたいと考え、現職派遣で大学院へ行きました。

学習臨床コースで過ごした2年間は、私にとって宝物の2年間です。

まず、子どもの学習過程の見方が大きく変わったということです。特に、算数では、子ども達が知っている全てのことに意味があることを知りました。一見誤答と考えるものにも、そうな理由があることを知りました。目からうろこが落ちるような思いを数多く体験させていただきました。

また、多くの人との出会いがありました。丁寧に指導をいただいた布川先生をはじめとする大学の先生方。全国や、県内様々な所から集まってきている個性溢れ、専門性の高い現職の先生方、これから教員を目指す熱意あふれる大学生の皆さん。この出会いから、多くのエネルギーをいただき、今現場での力となっています。

現在、私は、上越市立宝田小学校の教頭として、先生方の相談役となっており、頑張っています。自分がこれまで学んできたことを、研修やT・T、サークル

ル活動等を通して、還元できるように努力していきたいと思っています。最後に……上越市にはおいしいお店がたくさんありました。食も堪能した2年間でした。



磯野 和美
(いその かずみ)

新潟県糸魚川市出身。新潟県内の公立小学校で、17年の勤務を経て、学校教育専攻 学習臨床コースへ。布川和彦教授のゼミで算数・数学教育について研究を行う。平成20年3月修了。現在は、上越市立宝田小学校にて教頭として勤務している。

